

日本国憲法		講義	教授 吉田 一康	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	22200110 25100101	

1. 授業のねらい・概要

日本国民として知っておかなければならない国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解します。特に、最近、問題となっている憲法改正や皇位継承、自衛隊の海外活動については、論点を詳細に考察して、自分の意見を持つことを目的とします。また、2009年から開始された裁判員制度に適切に対処できる準備をしておきます。

以上の学習を通じて、生命の尊厳を理解し、倫理観と責任感、幅広い視野を持った心豊かな人間性を身につけます。更に、国際的な視野を持って活動できる能力を有して国際平和の実現に寄与できる人間となることを目標とします。

「ビジネス法学入門」の基礎的な部分と関係します。

2. 授業の進め方

- ① 50～60分 配布するレジュメ（要約の印刷物）に従ってパワーポイントを使用して講義を行います。憲法の第1章「天皇」第1条から第11章「補則」第103条まで、重要事項について、基本的に条文番号順に説明します。
- ② 30～40分 配布する練習問題に回答して、その後、解答を行います。また、質問・意見があれば討議を行います。

3. 授業計画

1. 講義紹介	9. 社会権（生存権など）
2. 憲法とは（憲法制定、硬性・軟性憲法）	10. 財産権・人身の自由（財産権の不可侵など）
3. 国民主権と天皇制（象徴天皇、皇位継承）	11. 参政権（選挙権、被選挙権、公務就任権）
4. 戦争放棄（自衛戦争、侵略戦争）	12. 国会（二院制、国政調査権）
5. 第9条関係（自衛隊の海外派遣）	13. 内閣（議院内閣制、解散権）
6. 権利の主体（日本国民、外国人、法人）	14. 裁判所（裁判員制度）
7. 基本的人権（法の下での平等）	15. 司法、財政、地方自治、憲法改正など
8. 自由権（思想及び良心の自由など）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読むこと（1時間程度）。講義後、授業内容を復習して、レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ① 各講義で行う練習問題の後に、解答及び説明を行います。
- ② 期末試験の後に、解答を行います。

6. 授業における学修の到達目標

- ① 国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解できるようになること。
- ② 戦争放棄や自由権などの政治問題について独自の価値観を形成すること。

7. 成績評価の方法・基準

評価は、上記6に示した学修の到達目標を、ルーブリック評価表を基に4段階評価（A80点以上 B70～79点 C60～69点 D（不可）60点未満）で採点します。ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義内で別途説明します。

具体的には、積極性20%＋期末試験80%で評価します。積極性は、受講態度や積極性で評価して、客観的に認識できる遅刻、私語・居眠りに対する注意の場合、減点します。期末試験の受験資格は、全講義の3分の2以上に出席した者とし、出題範囲は全講義で、特に上記6①を主とする専門的知識の理解度の確認をする穴埋め問題と、同②に関する記述問題を出題します。

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のことを挙げます。

- ① 小嶋和司・大石眞『憲法概観』（第7版）有斐閣双書 2011年（2090円）
- ② 木下智史・只野雅人『新コンメンタール憲法』日本評論社 2015年（5060円）

9. 受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や、遅刻・中途退席などの目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。